



 Data	2023-58
監督・脚本・製作：ジェームズ・グレイ	
レイ	
出演：アン・ハサウェイ／アンソニー・ホプキンス／ジェレミー・ストロング／バンクス・レペタ／ジェイリン・ウェッブ／ライアン・セル／ディン・ウェスト／アンドリュース・ボーク／トヴァ・フェルドシャー／ドメニク・ランバルドツツィ／ジョン・ディーラ／ジェシカ・チャスティン	

👁️👁️ みどころ

本題の意味は日本人にはわかりづらいが、サブタイトルを見れば、本作はきっと監督の自叙伝！？

中学入学直後に反抗期を迎えた私は悶々とした日々を送ったが、1980年、ニューヨークにおけるユダヤ系家族の次男で、12歳のポールは如何に？

授業放棄やマリファナ程度は許されても、私学への転校後も悪友の黒人(?)とつるんで窃盗行為に及ぶとは！こりゃやり過ぎ！彼は自分のやり過ぎをどう反省？そして、“世界の不条理”をどう確認？

■□■「アルマゲドン・タイム」ってナニ？副題で納得！■□■

マイケル・ベイが監督し、ブルース・ウィリスが主演した映画『アルマゲドン』(98年)は、テキサス州の大きさに匹敵する小惑星が、まっすぐ地球に向かうコースをとっており、約18日後には地球を直撃、地球環境に致命的打撃を与えバクテリアすら生き残らない死の惑星へ変えてしまうことが判明する中、NASA(アメリカ航空宇宙局)の専門家らと、ブルース・ウィリス扮する「穴掘りのプロ」、すなわち石油採掘のスペシャリストたちが大奮闘する物語だった。小惑星の中に埋め込んだ核爆弾を爆発させることによって、小惑星は大気圏突入前に2つに割れて軌道を変えたため、地球は滅亡の危機を免れることができたが、「地球滅亡の日」が18日後に迫っていたのは間違いない現実だった。すると、『アルマゲドン・タイム』と題された本作は、それと同じような“世紀末もの”？一瞬そう思ったが、「ある日々の肖像」という邦題のサブタイトルとパンフレットを見れば、本作が「俊英ジェームズ・グレイの実体験に基づく自伝的作品」であることに納得。本作は、「1980年ニューヨーク、12歳の少年のある日々が豪華キャストの共演で蘇る」ものだ。

他方、「アルマゲドン・タイム」とは英国のパンクバンド、ザ・クラッシュが1979年

にカバーしたレゲエの歌「ARMAGIDEON TIME」から取られたそうで、同曲は劇中でも歌われるので、それに注目！「世界最終戦争の時」という意味の「アルマゲドン・タイム」とは何とも物騒だが、12歳の少年ポールが転校を強いられる冒頭のストーリーがまるで「この世の終わり」だと感じたジェームズ・グレイ監督は、迷うことなく本作のタイトルを「アルマゲドン・タイム」にしたそう。日本では、蒙古が襲来した鎌倉時代（1274年と1281年）に、日蓮上人が“末法思想”を唱えて幕府から弾圧されたが、小学校の転校（ごとき）がなぜ「この世の終わり」になるの？私にはそれがよくわからないから、本作のタイトルにはあまり納得できなかったが、「ある日々の肖像」という邦題のサブタイトルで納得！

■□■舞台は1980年。12歳の少年の失われた時とは？■□■

本作のパンフレットの「プロダクション・ノート」には、①無限は自分の中にある、②公立学校の友人、③私立学校の子供たち、④歴史における1980年、⑤経験に基づいた物語、⑥この世の終わり・・・？、⑦“失われた時”を映像化、等のテーマに分けて、ジェームズ・グレイ監督が本作に込めた思いを詳しく伝えている。

ここで、特に注目すべきは⑥と⑦。前述の通り1980年代のニューヨークを舞台にした本作で、12歳の少年ポールにとっての「この世の終わり」とは、友達がいる公立校から私学への転校を強いられたこと。それがなぜ「この世の終わり」なのかはわかりにくいですが、そこでジェームズ・グレイ監督が語る“ある思い”を読むと少し納得できる。ジェームズ・グレイ監督が言うアメリカの歴史における1980年や「アルマゲドン・タイム」のヒット曲を私は全然分らないが、彼が言う「失われた時」を映像化しようと考えたとか、マルセル・ブルーストの長編小説『失われた時を求めて』のテーマは私にもわかる。

また、上記①の「無限は自分の中にある」によれば、ジェームズ・グレイ監督は本作で、自分の受けた教育を振り返り、成長期に周囲にいた人々を忠実に再現したそう。したがって、本作の主人公となるポールはまさにジェームズ・グレイ監督自身だし、両親や祖父をはじめとする家族たちも可能な限り本当の姿を伝えているらしい。なるほど、なるほど。しかして、ジェームズ・グレイ監督の自伝的作品たる本作に見る12歳の少年の「失われた時」とは？

■□■ユダヤ系中流家庭の教育は？弟は兄とは大違い！■□■

戦後すぐの1949年生まれの私は2人兄弟だが、教育熱心な両親のおかげで、兄も私も中学校は授業料の高い私立の中高一貫の進学校たる愛光学園に入学した。真面目な兄はそんな学校にすぐに馴染み、成績もトップクラスだったが、小学校時代のガキ大将気分が抜けない弟の方は、厳しいカソリックの規律の下での、クソ難しい授業についていけず、成績はずっと下位だった。もちろん、両親は「勉強しろ！勉強しろ！」とうるさいから、次第に家では口を利かなくなり、映画や囲碁そして卓球等の「趣味」に熱中した。

本作冒頭、小学校6年生になったばかりのポール（バンクス・レペタ）が、留年してい

る黒人のジョニー（ジェイリン・ウェップ）とつるんで“悪さ”を繰り返す姿が描かれる。ポールは得意の絵を描いてクラスメイトたちを笑わせただけだが、それでも一定の限度を過ぎると厳格な教師が許してくれないのは当然だ。中学校に入っただけの私の不平不満は、そんなポールとは異質のものだったが、教師や学校に対する反発、反抗は同じようなものだ。

他方、ポールの家庭はユダヤ系で、母親のエスター（アン・ハサウェイ）は教師をしながらPTAの会長をしているからすごい。一家揃っての夕食風景を見ると、いかにも厳格なユダヤ人一家だから、ポールが食事についてのわがままが許されるはずはない。そこで見せる、父親アーヴィング（ジェレミー・ストロング）の厳格さは格別だ。それらの姿は私の子供時代（の家族）と重なるが、大きく違うのは、ポールには何でも話せる優しい祖父アーロン・ラビノウィッツ（アンソニー・ホプキンス）がいたことだ。両親に反抗して手がつけられなくなった時に、なだめて優しく悟すのが、このアーロンだが、彼が語る昔の苦労話には説得力がある。彼の故国はウクライナ、そしてユダヤ人であるため、目の前で両親を殺されたそうだが、そんな彼がなぜ1980年の今、ニューヨークにいるの？そしてまた、なぜこんなに立派な“家族”を形成しているの？2022年2月24日のロシアによるウクライナ侵攻から1年3ヶ月がたった今、アーロンにとっての「失われた時」とは何だったの？本作を鑑賞するについては、それらについて、しっかり考えたい。

■男の子の反抗期はこんなもの？その姿をじっくりと！■

「朱に交われば赤くなる」とはよく言ったもの。本作では、ポールがジョニーと親しくなる（交わる）中で、それまで知らなかった黒人の世界や貧乏の世界を知り、少しずつ変貌していく姿が瑞々しく描かれていくので、それに注目！

貧乏人の子とお金持ちの子はソリが合わないのが普通だが、金持ちの子の対応次第では、そんな2人が仲良くなれる可能性はある。そこで大切なことは、金持ちの子が金を出すことについて、恵みや施しだとお互いが感じないこと。本作のポールとジョニーを見ていると、それが実にうまくいっていることがわかる。ポールは、病気の祖母と暮らしており、社会科見学に参加するお金がないジョニーのために、母の宝石箱からお金を盗み出したうえ、見学先のグッゲンハイム美術館でクラスの一行から抜け出し、街で自由を謳歌したが、この行動は如何なもの……。さらに、厳格な自分の家庭と比べて、ジョニーの自由な生活に憧れるポールは、ジョニーから勧められるままにマリファナを吸い大騒動になったから、これも如何なもの……。いくら「違法なドラッグとは知らなかった」と弁解しても、それは無理というものだ。

そんなこんな騒動によって、ポールの母はポールを問題児扱いする校長に対して毅然と対応したものの、念願の教育委員会への立候補は断念せざるを得ないことに。その挙句、両親はポールにジョニーと付き合うことを禁じ、兄と同じ私立校への転校を命じたから、ポールはいつも味方してくれる祖父に望みを託したが、実は転校を勧めたのは祖父だった

と聞いて、アレレ。アーロンは「この世は不公平だから、お前たちをしっかりと守るためだ」と諭したが、さて、ポールはそれを聞く耳を持っているの？男の子の反抗期はこんなもの？その姿をじっくりと！

■□■ 2人は別の世界へ！これで完全にリセット？ ■□■

公立の小学校6年生の時に、ユダヤ人ながら裕福な家庭の次男ポールと、病気の祖母と暮らしている黒人で、しかも留年しているジョニーが友達になったのは珍しいケースだが、前述のような問題を起こした2人が切り離されたのは当然。ポールの私学への転校が両親の厳格な教育方針によるものではなく、ポールが愛してやまない祖父アーロンの勧めだったのは意外だったが、結果的に12歳のポールがそれに従わざるを得なかったのは当然。

他方、ジョニーは病気の祖母がいなくなると守ってくれる家族がいなかったから、当局の手によって里親に引き渡されそうになったのは仕方ない。これによって、2人は別の世界へ！これで完全にリセット？そうなれば“問題なし”だが、現実にはそこから逃れようとするジョニーは、自宅の離れに住んでいるポールの元に身を寄せて隠れようとしたから、さあ、ポールはどうするの？既にポールがジョニーと接触している姿を、転校先の黒人を悪く言う生徒たちに目撃されていたから、ジョニーの危機はすぐそこまで・・・。

そんな中、ポールが思いついた“奇策”が、教室にあるパソコンを盗み出して資金を作り、2人で新天地フロリダを目指すこと。教室の中に容易に入れることを説明するポールの“戦略”をジョニーが理解すれば、盗んだパソコンを質屋に入れて現金にするという具体的な“戦術”はジョニーにとってお手のもの。そんな夢の実現(?)に向けて、2人はワクワクドキドキしながら教室からパソコンを盗み出し、質屋に入るジョニーをポールは身を隠して見守ったが、さて現実・・・？

■□■ 自分のやり過ぎをどう反省？世界の不条理をどう確認？ ■□■

中学1・2年生当時の私は、何の自由もない世界への反発とそれを強要している両親への反抗、さらには、成績がずっと下位にある学校の授業への苛立ちに常に悶々としていた。その憂さ晴らしが、私にとっては映画であり、ラジオであり、そして将棋、卓球等々だったが、そんなレベルにとどまらず、“不良”と呼ばれるレベルの友人も数名出現した。その最悪のケースは退学だが、そこまで行くと彼らの人生はお先真っ暗・・・？

そんな理性的な判断で、私は劣等生レベルを維持し、不良レベルには至らなかったが、本作に見る12歳のポールは授業放棄やマリファナで私学への転校を余儀なくされたにもかかわらず、そこで悪友のジョニーとつるんで窃盗罪を犯したのだから、こりゃやり過ぎ！これでは、不良レベルを超えて犯罪者だから、下手すると少年院送りに・・・？さあ、ポールは自分のやり過ぎをどう反省するの？世界の不条理をどう確認するの？

2023（令和5）年5月17日記